

平成22年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A	取組 名称	地域文化遺産を活用するための調査・記録・情報化の研究 －八幡市域を中心とした文化情報学研究の確立－
研究代表者：	文学部歴史学科 准教授 東 昇		
研究担当者：	京都府立大学（渡辺信一郎、菱田哲郎、上島享、小林啓治、井上直樹、上杉和央・藤本仁文） 外部分担者・協力者（水本邦彦、伊野近富、竹中友里代、西中道）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	八幡市教育委員会、八幡市ふるさと学習館		
【研究活動の要約】			
八幡市域は石清水八幡宮を中心に、歴史、文化遺産の多いまちである。昨年に続き計2年間、教員・学生とともに、現地調査をおこない、この多様な文化遺産を以下のかたちで記録、情報化した。			
<ul style="list-style-type: none"> ① 中ノ山墓地の石仏群 75 体の銘文や位置を調査し、江戸時代の地域の信仰について解明 ② 村の鎮守である各地の神社の常夜灯、鳥居の銘文や寸法を調査し、神社と地域の歴史を考察 ③ 市内の旧家に所蔵されていた古文書を調査し目録を作成、公開、江戸時代の八幡の歴史が判明 ④ 石清水八幡宮と八幡宮神領に関する文書や絵図を調査し、八幡宮の祠官家、八幡の火事や淀屋関係史料の発掘などの歴史を解明 ⑤ 洞ヶ峠から八幡市駅間の旧東高野街道を踏査し、数多くの道標、景観など文化遺産の確認 			
【研究活動の成果】			
上記の研究成果を『八幡地域の古文書・石造物・景観－地域文化遺産の情報化－』として刊行した。内容は以下の5部編成とした。Ⅰ「地域の文化遺産と歴史」Ⅱ「街道の景観と文化遺産」Ⅲ「神社の石造物と文化遺産」Ⅳ「墓地の石造物と文化遺産」Ⅴ「古文書の調査と目録」。主な内容として①市内東部 10 箇所の神社の石造物（常夜灯、鳥居）の位置、画像、トレース、銘文情報、②中ノ山墓地の石仏 75 体の位置、画像、銘文情報、③近世商家の古文書 680 点の詳細な目録、④東高野街道の道標や石碑など文化遺産の銘文や写真、⑤文書や絵図からの石清水八幡宮や八幡の歴史分析を収録している。			
【研究成果の還元】			
2010.7.12 八幡市念佛寺 参加者約 40 名 アクター報告会 「古文書が出てきたらどうするか？－貴重な文化遺産を未来へ－」（京都新聞取材）			
2010.9.27 八幡市立文化センター 参加者約 40 名 八幡の歴史を探究する会報告 「絵図と案内記で探る八幡の歴史」（京都新聞取材）			
2010.9.30 京都府立大学 参加者約 90 名 京都府立総合資料館資料館カレッジ 「『郡村誌』でみる近世・近代の八幡」			
2010.11.5 京都府立大学 参加者 14 名 八幡市立男山第二中学校体験学習 「絵に何が描かれているか？ 石清水八幡宮絵図－」			
2010.11.28 八幡市神應寺 参加者約 100 名 神應寺7回紅葉まつり講演 「神應寺開創 1150 年の歴史」			
2011.3.31 『八幡地域の古文書・石造物・景観－地域文化遺産の情報化－』刊行 (府下の図書館で閲覧可能 (予定))			
【お問い合わせ先】		文学部歴史学科 准教授：東 昇	
Tel: 075-703-5271		E-mail: n-higashi@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

2010.10.24 石造物調査（八幡市下奈良天満宮境内）



2010.7.12 アクター報告会「古文書が出てきたらどうするか」（八幡市念佛寺）



『八幡地域の古文書・石造物・景観 —地域文化遺産の情報化—』（報告書）



八幡地域の古文書・石造物・景観
—地域文化遺産の情報化—



2011.3
京都府立大学文学部歴史学科